

# 「高齢者鍼灸講座」の教材テキストと執筆者

	タイトル	内 容	担当
1	鍼灸師に必要なバイタルサインの知識	バイタルサインとは血圧・心拍数・呼吸数・体温など生命の兆候を示すものである。これらの値は数値化されるものであり、それらの変化は生命に直結するものである。バイタルサインの変化の重要性及び緊急性について学ぶ	綾部市立病院 内分泌・糖尿病内科 医 長  大坂貴史先生
2	鍼灸師で必要な身体診察の知識	訪問鍼灸を含めた鍼灸診療において患者の皮膚を直接接触する事で患者の状態を把握する。皮膚疾患のみならず一部の内科疾患は外表面に特徴的な所見を呈しそれらを学ぶことで、訪問鍼灸師の質的向上を目指す。	
3	鍼灸師に必要な救命救急知識	一次救命処置 (BLS) は一般市民にも広く普及されているが医療関係者ではその質の担保が重要であり、緊急時の BLS の質により患者の予後が大きく変わる事が知られている。BLS を中心とした救命救急の知識を学ぶ	
4	擦過鍼の基本実技	擦過鍼の持ち方、基本操作を学ぶ	NPO 法人 日本擦過鍼協会 理事長  吉村春生先生
5	擦過鍼実技	基本的な気分を落ち着ける擦過鍼のルーチンを学ぶ	
6	擦過鍼機能訓練実技	擦過鍼を用いた機能訓練の方法を学ぶ	
7	擦過鍼と合わせて行う機能訓練運動（理論）	機能訓練に必要な運動の理論を学ぶ	
8	擦過鍼と合わせて行う機能訓練運動（演習）	機能訓練に必要な運動指導の方法を学ぶ	
9	ICF（国際生活機能分類）について	ICF（国際生活機能分類）とは何か、どのように医療・介護に生かすかを学ぶ	
10	地域包括ケアと他職種協働	介護保険制度の目指す地域包括ケアと他職種協働とは何かを学ぶ	
11	ICF に基づく報告書の書き方（演習）	ICF に基づいた評価（アセスメント、モニタリング）の方法、報告書の書き方を学ぶ	
12	認知症の知識と評価方法（演習）	認知症についての知識と、評価の方法を学ぶ	
13	ICF に基づく日常生活機能の評価（演習）	ICF に基づいた日常生活機能評価の方法を学ぶ	
14	人権研修	人権について学ぶ（虐待と差別）	

15	痛みの診断学	痛み、特に急性痛と慢性痛の違いを理解するとともに、それらを鑑別するための診察法（レットフラッグやイエローフラッグなど）をエビデンスに基づき理解する。	<p>明治国際医療大学 大学院鍼灸学研究科 養生学寄付講座 教授</p> <p>伊藤和憲先生</p>
16	痛みの治療学とその理論とその実技1（急性痛について）	治療の中でも、急性痛の治療は局所にアプローチすることが多いことから、局所に対する鍼灸治療の方法とその治効機序について理解する。	
17	痛みの治療学とその理論とその実技2（急性痛について）	治療の中でも、急性痛の治療は局所にアプローチすることが多いことから、局所に対する鍼灸治療の方法とその治効機序について理解する。	
18	痛みの診断学とその理論2とその実技（慢性痛について）	慢性化した痛みは、疼痛局所に対するアプローチだけでは難しく、遠隔部からの治療が必要です。そこで、遠隔部への様々な治療法（四肢・顔面部・耳鍼・頭皮鍼、鍼通電など）とその治効機序を理解する。	
19	痛みの診断学とその理論2とその実技（慢性痛について）	慢性化した痛みは、疼痛局所に対するアプローチだけでは難しく、遠隔部からの治療が必要です。そこで、遠隔部への様々な治療法（四肢・顔面部・耳鍼・頭皮鍼、鍼通電など）とその治効機序を理解する。	
20	痛みのセルフケアと生活指導	痛みを家庭でコントロールしてもらうために、どのようなセルフケアが必要であるかを理解し、理論に基づくセルフケアを実践できるように学習する。	
21	関係法規Ⅰ	療養の給付と療養費の支給の違いについて整理する。	<p>NPO 法人ミライディア 理事</p> <p>坂部昌明</p>
22	関係法規Ⅱ	広告規制及び施術内容についての法的な考え方について整理する。	
23	情報学	施術録の考え方や記載方法について概説すると共に、行政文書の記載方法や文書それぞれの役割等について学習する。	
24	倫理学	患者との関係性の構築および十分な説明を経た信頼関係構築について学習する。	
25	介護支援鍼灸師の社会的使命と職域	超高齢社会に突入する日本において、介護予防鍼灸師が果たすべき社会的使命とその活躍の場を学ぶ。	<p>一般社団法人 介護支援鍼灸師協会 代表理事</p> <p>高田 光俊</p>
26	フレイル予防と自立支援介護	介護業界に携わる専門職として必要不可欠な知識として、「フレイル」と「自立支援介護」について学ぶ。	
27	高齢者とのコミュニケーション手法	リハビリ患者、認知症患者、末期がん患者など、介護の分野で治療する様々な高齢者との接し方を学ぶ。	

# 介護支援鍼灸講座の副教材

## 在宅医療のための訪問鍼灸ガイドブック

～地域包括ケアシステムにおける鍼灸師の役割～

**2020年6月、医歯薬出版（株）より出版予定**

はじめに 飯島 治先生〔亀戸大島クリニック院長〕

### 序章

「超高齢社会における鍼灸師の社会的使命」

江川雅人先生〔明治国際医療大学〕

### 第1章

「これからの訪問鍼灸への期待」 飯島 治先生

### 第2章

「在宅医療における鍼灸治療」

#### 1. 健康保険の適応となる主な疾患

- ①腰痛症（脊柱管狭窄症，椎間板ヘルニア，変形性腰痛症を含む）  
井上基浩先生〔明治国際医療大学〕
- ②神経痛（帯状疱疹後神経痛，三叉神経痛，坐骨神経痛を含む）  
石丸圭荘先生〔了徳寺大学〕
- ③リウマチ 粕谷大智先生〔東京大学医学部附属病院〕
- ④五十肩 水沼国男先生〔明治国際医療大学〕
- ⑤頸腕症候群・頸椎捻挫後遺症 坂井友実先生〔有明医療大学〕

#### 2. 要介護者の高齢者に多い代表的な疾患

- ①脳卒中後遺症 山口 智先生〔埼玉医科大学〕
- ②認知症 高士将典先生〔東海大学医学部附属病院〕
- ③パーキンソン病 江川雅人先生〔明治国際医療大学〕
- ④ロコモティブシンドローム 木村啓作先生〔明治国際医療大学〕
- ⑤がん 和辻 直先生〔明治国際医療大学〕

### 3. 要介護の高齢者によく見られる症状

- ①不眠 鶴 浩幸先生〔明治国際医療大学〕
- ②下肢の浮腫 安野富美子先生〔有明医療大学〕
- ③便秘 岩 昌宏先生
- ④頻尿・尿もれ 本城久司先生〔明治東洋医学院専門学校〕
- ⑤嚥下障害 福田晋平先生〔明治国際医療大学〕

### 第3章

「在宅医療における鍼灸師と多職種連携」 高田光俊先生

- 1. ケアマネジャーと鍼灸師の連携
- 2. 医師と鍼灸師の連携
- 3. 看護師と鍼灸師の連携
- 4. 歯科医と鍼灸師の連携
- 5. 理学療法士と鍼灸師の連携
- 6. 薬剤師と鍼灸師の連携
- 7. 管理栄養士と鍼灸師の連携
- 8. 地域包括支援センターと鍼灸師の連携

### 第4章

「訪問鍼灸の臨床ガイドライン」 坂部昌明先生

- 1. 訪問鍼灸に必要な治療機器
- 2. 健康保険適用の場合の手続き
- 3. 患者の医療・介護情報の把握と禁忌の確認
- 4. 訪問鍼灸の問診と治療プラン策定
- 5. 施術前のバイタル測定と症状把握
- 6. 鍼灸治療で守るべき手順と注意事項
- 7. 施術後のバイタル測定と症状確認
- 8. 患者および家族のカウンセリング
- 9. 施術カルテの記入
- 10. 施術報告書の作成

### 第5章

「在宅医療における患者とのコミュニケーション」 高田光俊先生、飯島治先生

### 結び

「在宅医療従事者の皆様、そして、鍼灸師を志す皆様へ」 高田光俊先生

本書は、介護支援鍼灸講座の受講生全員に対して、  
臨床実務の副教材として無料配布する予定です。